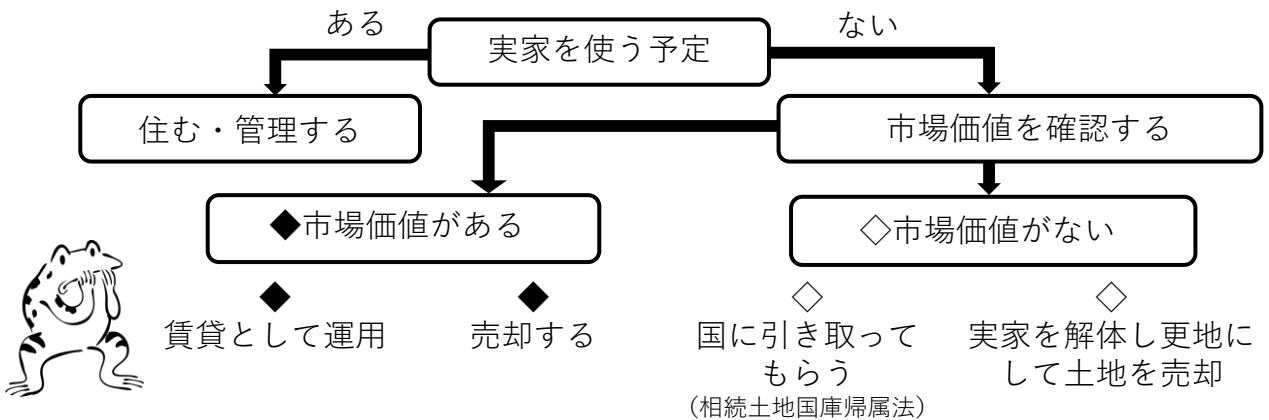


ゆるい しゅうかつしんぶん 終活新聞

空き家になりそうな実家…どうすれば良い？ 意外と深刻！実家の問題

「空き家」を多く見かけるようになりました。一方、田んぼが宅地になり若い世代の新築一軒家が所狭しと建てられている現状も見られます。空き家でなくても、大きな家に一人住まいの高齢者も多くなり、老前対策をしておかなければ、ケガや転倒、在宅介護が困難になったり、使い勝手の悪い暮らしからゴミ屋敷になる可能性もあります。空き家は風化や犯罪などの問題を引き起こすため、地方自治体も空き家対策に取り組んでいます。子どもが地元から離れたり、持ち家を持っていると、その後実家に住むことはなかなかできず、今後空き家問題は増えてくるでしょう。特に郊外の空き家は「早く手放す」のが鉄則と言われていますが、親子の価値観も違い難しい問題となっています。いざ家売ろうと思っても不動産業者の報酬は、物件価格に対する率で決まるため、中古物件に魅力がないのも現状です。総務省が発表する「市区町村別の人口動態」人気の街でなければ、買い手がみつかるだけ御の字でしょう。不動産が負動産、そして腐動産とならないために、元気なうちに実家の話し合いをしておきたいものです。今春から「相続土地国庫帰属法」が施行され、要件は厳しいものの国庫に寄贈できるようになりました。また、空き家バンクなどに登録したり、お隣さんに交渉するのもおすすめです。マンションも一定数の管理組合が機能不全を起こし、運営が行き詰まることも考えられます。家ですが家の中にある「モノ」のこともぜひ元気なうちに考え、最小限にしておきましょう。もし実家を売却できるようになっても、家財道具の処分には手間も費用もかかってしまいます。



□ 自分と身内の不動産を書き出し、10年後を想像してみましょう

終活の重要性はなかなか伝わりませんが、「実家の空き家問題」をお話すると効果があります。高齢者が実家に一人で住み不便を感じていたり、施設に入って管理ができていない。そういう時、誰がどう動けるのか？もしものことがあったら相続、仏壇、墓守…どうするのか？いろんな問題が見えてきます。昔は大家族で長男が云々の時代でしたが、今は誰かがやってくれるだろうの意識では、問題を先送りにしてしまうだけです。自分の終いは自分でする時代。なかなか一歩を踏み出しにくい問題ですが、まずは自分の思い、そして家族や相続人の思いを日頃から話し合えるコミュニケーションを取ると、家族円満、そして社会も救うことになると思います。

